

## パブリックコメント等の実施結果について

### ■第2回地域福祉計画策定・評価委員会委員意見等（令和5年2月6日）

#### ＜市民アンケートのまとめについて＞

##### ○川口昭一委員

- ・高齢者、子ども、若い人との交流がますます大切になってくると思う。向三軒両隣の精神で協力していきたいと思います。

##### ○伊東亜希子委員

- ・高齢者と子どものつながりについては、公民館や小学校のクラブに参加することでつながることがある。地域との関係については、公民館や自治会からの声かけが必要だと思います。

##### ○佐々木壮一委員

- ・子どもとの触れ合いについては、まずは祭りから再開し、子どもと積極的に関わるように取り組みを進めていきたいと思います。

##### ○植田建造委員

- ・小中学生にとって来やすい公民館となるよう話し合いをしています。ボランティアセンター、公民館、民生委員、自治会、婦人会など色々合わせて連携を深め、よりよい公民館にしていきたいと思っています。

#### ＜福祉ワークショップのまとめについて＞

##### ○古徳寧副委員長

- ・「福祉ワークショップのまとめ」については、高齢者福祉、障がい者福祉などそれぞれのテーマでキーワードをまとめて欲しい。

➡資料編「福祉ワークショップのまとめ」に項目別でキーワードを追加

資料2

##### ○宮本剛志委員

- ・福祉ワークショップは全体を通して、どういう方が参加されましたか。
- ➡地区の社会福祉協議会、自治会、民生委員、PTA、公民館関係者、障がい者団体など幅広く参加していただきました。

○門脇佳恵委員

- ・自治会、民生委員、地区社協など、世代交代で困っておられ、人材不足が大きな問題と感じました。また、世代間でひきこもりや介護などの問題以外に経済的なことも絡んでいて、問題の多様化も起きているが、地域の問題にみんなが全力で対応できるとよいと思います。

○柏木香寿子委員

- ・高齢独居の方が自分の寂しさを紛らわすために、ペットを飼い、どんどん増えていくという問題が、どの地区でも起こっており、一番問題だと思います。また、すべての高齢者が色々な遠慮をされることで、孤独・孤立の問題が増えていると思います。民生委員の中で工夫して、本当に必要とされている方にきちんと手が届くような活動にしたいと思います。

○佐々木壮一委員

- ・ふれあいの家や移動販売など率先してやっているが、話し合う場所を求め高齢者が多い。それが一番のキーポイントだと思う。

○松下秀子委員

- ・余子地区は、余子と上道の公民館だよりの回覧が来るが、いつどこで何があるかということを手早く回さないといけない。福祉ワークショップの参加者が少なかったのは、そういうこともあるのかなと思います。

○加藤大輔委員

- ・地域の課題や問題が色々わかっている中で、行政任せではなく、もっと地域の方々同士でしっかりと解決していけば、町も一つになり、より良くなっていくのかなと思います。

<地域福祉計画（第4期）素案について>

○平林和宏委員

- ・権利擁護、成年後見制度の推進が大事であり、担い手として市民後見人の育成も必要です。そういった地域福祉をつくる人づくりとして、ケアラー問題に対応し、バックアップできる体制をとっていただきたいと思います。

○伊東亜希子委員

- ・障がいのある方本人に対して手厚い対応だと感じました。本人を含め、支える親御さんにもスポットが当たるといいのかなと思います。

○門脇佳恵委員

- 基本目標1の誰も地域で孤立させない体制の推進が一番の要だと思います。高齢独居の方だけでなく、高齢者世帯でも、民生委員さんが声かけや支援をされており、孤立させない体制づくりができていますが、他の地区に広めたり、他の地区の好事例を共有したり、広報で紹介したりしながら知らない方が分かるような方法も必要かと思います。

○古徳寧副委員長

- 基本的な考え方の基本目標2の地域福祉をつくる人づくりの中に「自治会の活動が重要になります」と書いてありますが、計画本文の基本目標2には、課題と施策の展開には、自治会のことが書かれていません。自治会の活動が最重要であり、自治会が活発になれば、福祉を担う人材ができてくると思いますので、自治会の言葉を入れて欲しいと思います。

➡パブリックコメントを実施する前に修正

資料3

○佐々木健雄委員

- 成年後見制度は収入の少ない人には、市の助成とかを考えて欲しい。また、避難支援方法については、具体的に避難できるか考えて欲しい。社協の法律相談や民生委員の相談をもっと活用して欲しい。自治会未加入者へ広報を配る方法がないため、フォローが必要ではないかと思います。

○門脇重仁委員

- 再犯防止について、市の段階で考えられる計画はこれしかないかなと思っています。境港は大変よくやっていると思います。

○小林豊委員

- 自治会が関わればみんな良くなるということで、自治会に入る方法をみんな考えて欲しい。

○佐々木健雄委員

- 転入した方等に不動産屋さんから自治会加入促進のための案内文書を出してもらったらどうか。(自治会名、会長名などを教える。)ゴミ捨て場など情報(市報)が入ってくるなどのメリットを伝える。市民課でも転入の時などに案内してはどうか。

## ■パブリックコメントの実施結果

- 実施期間 令和5年2月10日（金）～3月10日（金）
- 実施方法 福祉課、各公民館、市ホームページにて計画案を公開し意見を求めた。
- 提出方法 意見内容、住所、氏名などを明記し、持参、郵送、ファクシミリ、電子メールのいずれかにより福祉課に提出。
- 結 果 0件

## ■境港市議会経済厚生委員会委員意見（令和5年2月7日 進捗状況報告）

### <基本目標1>

- その地域の自治会に協力を求めることが多いのではないかと思います。お願いだけするのではなく、資金的な裏付け等で支援するようなことも考えていただきたい。
- 地域でのつながりを大切にするまちづくりという項目は、学校の理念においてもよく掲げられている。学校との連携のことが書かれていないがどうか。
- 重層的相談支援体制整備が重要だと思う。この大きい計画の中である程度具体的に連携体制ができるようにすることが重要ではないか。

### <基本目標2>

- 地域福祉を作る人づくりということで、民生委員の補助員制度を作って、民生委員さんと一緒に活動することによって次につながると思うがどうか。
- 今の時代は人を探するのが大変な時代。民生委員さんが活動するときにはそれなりのバックアップ体制づくりをしておかないといけないと思う。また、例えばゲートキーパーであるとか、その辺りの強化というか、協力的に人材育成しないといけないと思う。

## 福祉ワークショップ意見まとめ

(令和4年度実施・境港市福祉保健部と境港市社会福祉協議会との共同開催)

地区	開催日時			参加者(人)
渡	11月14日	月曜日	19:30~21:00	11
外江	11月8日	火曜日	19:30~21:00	9
境	11月7日	月曜日	19:30~21:00	16
上道	11月9日	水曜日	19:30~21:00	16
余子	11月22日	火曜日	19:30~21:00	5
誠道	11月20日	日曜日	9:00~10:30	14
中浜	10月25日	火曜日	19:30~21:00	15
合計				86

## 各テーマのまとめ

テーマ	キーワード
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上でもみんな元気。(渡、境、余、誠)</li> <li>・ふれあいの家などに集まって話をするのが大事。 (渡、外、上、余、中)</li> <li>・向こう三軒両隣の精神で見守れる体制を作りたい。(外、境、上、誠)</li> <li>・日頃から近所の高齢世帯の安否を確認している。(外、境、誠)</li> <li>・高齢者世帯の実態把握は難しい。(渡、境、上、誠、中)</li> <li>・買い物困難者の問題がある。(境、余、誠、中)</li> </ul>
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方の対応方法がわからない。(渡、外、上、余、中)</li> <li>・8050問題やひきこもりなど障害がある方の世帯把握が難しい。(渡、外、上、余、中)</li> <li>・相談を受けたら行政等につなげている。(渡、上)</li> <li>・自治会としてどこまで関わってよいかわからない。(渡、境、上)</li> </ul>
児童福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが少ない。(渡、外、上、余)</li> <li>・コロナ禍で交流機会減少しているが、異世代間の交流が大事。 (渡、境、余、誠)</li> <li>・子どもの集まる場所が必要。(外、境、上、誠、中)</li> <li>・児童虐待、ヤングケアラー等の問題は連携が必要。(外、中)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で減っている世代間の交流が大事。(外、境、上、余)</li> <li>・なり手不足、高齢化などで世代交代が難しい。(渡、外、余、誠)</li> <li>・ふれあいの家等の事業をするには、世話人が必要。(外、境、中)</li> <li>・空き家、空き地、猫、ゴミの問題がある。(外、境、上)</li> <li>・アパートなどに住む方は自治会に入る方が少ない。(上、誠)</li> </ul>

**■補足修正箇所**

- ・境港市地域福祉計画 P.40-41 以下のとおり下線部を補足修正

**【基本目標2】****地域福祉をつくる人づくり**

○身近な地域で安心して快適に住み続けるためには、お互いを思いやる気持ちが大切です。

**【現状と課題】**

地域は、そこで暮らす身近な人たちとの社会的な関係の中で、それぞれの人たちが自分らしい生き方をしていく場です。共生社会の実現を目指して、多様な年代や性別の人、認知症や要介護状態にある人、障がいや病気がある人、外国人、罪を犯した人などすべての人が、住み慣れた地域で自分らしく過ごせることが、その人の尊厳を支えることにもなります。地域の人々がお互いに思いやる気持ちをもって生活することが、思いやる気持ちを持つ人の自己実現につながるばかりでなく、支援を受ける人にとっても地域で自己を実現し、尊厳ある生活を可能にするものです。

市民アンケートにおいては、「もし近くで困っている世帯があったらあなたが手助けできる事は何か？」という問いに対して「安否確認の声掛け」「ちょっとした買い物やゴミ出し」「話し相手」が上位に回答されています。

しかしながら、地域のボランティア活動については、5割弱の人が参加したことが無いと回答しており、地域福祉の現場からは、ボランティア不足や高齢化を指摘する声も多く、ボランティアの発掘・育成が今後の重要な課題と考えます。

また、自治会への加入率は70%を下回り年々減少しています。加入していても自治会活動への参加は決して多くない現状がみられることから、加入促進及び活動への参加者をいかに増やしていくかも課題です。

## 【施策の展開】

### ① 「福祉意識」の醸成

地域福祉を推進する上では、市民一人ひとりの福祉に関する意識向上と実践が必要です。そのために、福祉施設などとの日常的な交流や福祉活動・行事の情報提供により、参加を促し、福祉意識の向上に努めます。あわせて、積極的な社会参加は、認知症やフレイルを予防し、健康で生き生きと暮らすことにもつながることの啓発に取り組みます。

また、「社会を明るくする運動」を通じて、罪や非行をした人の立ち直りを支え、再犯を防止することの大切さや、更生保護の活動について広く周知し、理解を深めます。犯罪や非行が起こらないよう、地域全体で青少年を見守り健やかな成長を支えます。

### ② 福祉を担う人材の育成

福祉活動を継続・発展させるため、ボランティアセンター（市社協）を中心としたボランティア活動の後継者の育成や新たな人材発掘に努めます。また、ボランティア活動などへの参加のきっかけづくりとなる講座や体験事業、福祉教育を推進し、地域の人々が主体的に参加できる場の充実に努めます。また、地域福祉の中心となる民生児童委員や市民後見人のなり手不足の解消について、さらに自治会への加入促進及び活動の活性化についてもさまざまな方策を検討していきます。

あわせて、食生活改善推進員、健康づくり地区推進員、ゲートキーパー、成年後見人、フレイルサポーターなどを増やすため啓発や研修などに取り組みます。